



鳥飼 年幸議員(政委会)



●各議員のQRコードを読み取ると、その議員の一般質問の様子が視聴できます。

代表質問

質問の主な項目

- ・ 人事管理について
- ・ 放課後児童クラブについて

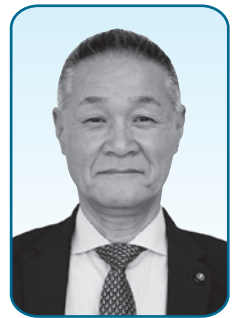
また、事業報告書によると、11組のカップルが成立しており、独身男女の出会いの場の創出として効果があったことから、事業の支援を継続していきたいと考えています。

(政策部長)

婚活支援事業の成果

Q 市への定住を促進するため、婚活支援事業に対する補助を実施しているが、その成果は。

A 坂出商工会議所青年部の主催により、令和4年11月6日に交流の里おうごしにおいて「さかいで婚活物語〜恋の迷宮からの脱出婚〜」と題し、3年ぶりに開催しました。男女定員各21名のところ、男性56名、女性35名と定員を大きく超える応募があり、抽選の結果、男性27名、女性24名が参加したとの報告を受けています。



とりかいと
としゆき
年幸 議員
政委会



自治会の今後の在り方

Q 加入者の減少、行事の参加率の低下など自治会の運営には様々な課題があるが、地域づくりのためには自治会組織は欠かせない存在であることから、今後の在り方についてどのように考えているのか。

A 自治会は、地域住民が相互に、よりよい自分たちの地域づくりを目指し、自主的に結成された「住民自治の基礎をなし、地域社会づくりの基礎をなすもの」で、また、「地域コミュニティの基礎」と言えるものであり、地域住民と行政との橋渡し役として、各地域における中心的な役割を担っているものと認識しています。

本市においても、あらゆる場面で自治会の理解と協力をいただき、市民参加によるまちづくりを進めていることから、今後も、まちづくりの中核を担っていただく存在として、各地区連合自治会や単位自治会等の協力の下、行政運営を進めていきたいと考えており、自治会組織が抱える課題等についても、連携・協力しながら取り組んでいきます。

(総務部長)

規格外野菜の学校給食での活用

Q 廃棄処分されている規格外野菜を給食で提供することは、食品ロス削減に寄与するだけでなく、生徒・児童にとっても、SDGsを学ぶよい機会になると思うが、所見を伺う。

A 規格外野菜の活用については、地場産品を取り入れる際に関係団体と協議をしましたが、収穫できる規格外品の数量や時期が不確定であり、また、給食センターで調理する食数分の食材を安定的に確保することが困難であること、規格外品の場合、形や重さがふぞろいになり、調理に一定以上の手間がかかること、生産者が販売できない規格外品を収穫し、新鮮な状態で納品することが難しいこと等から、実現には至っていません。

また、地元食材の紹介や生産者からのメッセージを含めた、給食献立の動画を毎日配信するとともに、SDGsの取組として、給食の残菜状況を給食センターと共有するなど学校給食の食材について、生産から調理、喫食、回収などの流れを理解し、食品ロスの削減に向けた意識づけを行っています。

(教育長)